



周恩来と嵐山と対日認識

法政大学国際日本学研究所教授 王 敏様

卓話者紹介

岡田 邦男会員

王先生は、法政大学教授です。法政大学は日中友好の架け橋のために王先生を招聘し、国際日本学研究所を設立しました。また、周恩来が千代田区で学んだことから、周恩来の研究もされており、千代田区友好協会の名誉顧問にも就任して頂きました。

周恩来が1919年、日本留学と惜別し、帰国する前の桜咲くころのひと月余り京都に滞在した。帰国する前の限られた時間を割いてのことだった。中国文化の影響を受けつつ和風文化が形成された日本の古都に直接触れるよきひと時を持つとしたのだろうか。その折、都の西郊の名勝地・嵐山を探訪した。当時はまだまだ交通不便な嵐山を一日だけでなく二日も逍遥している。いずれも雨が降っていたらしい。

さて、周恩来に限られた帰国前の時間を惜しまずに京都滞在、さらには嵐山逍遥に充てた理由はいったいなにか。嵐山の何かが周恩来を揺さぶったのだ。

たぶん、周恩来が雨中を歩きながら、禹王信仰を大切にす角倉了以縁の大悲閣先光寺に上っていった。嵐山逍遥の中で、中国史の古代王国「夏」の創始者「禹」が治水神として息づきことに気づき、京の豪商角倉了以の大規模な治水事業にもつながるといふ発見があったにちがいない。

周恩来は新中国の総理を背負い、外交の責務を果たしたが、日本に対しては厳しさの一方で理解ある対応を見せた。1972年の日中国交回復は周恩来の決断とされる。外交姿勢に知日の域の強かった印象から、多くの日本人に好かれた。懐かしがる日本人は多い。周恩来は終生、日本を忘れていない、そういう印象を与える。「日本を忘れまじ」という周恩来の言葉が聞こえてくるようだ。

周恩来が終生、「親日」的であったことは否めないが、このことと、日本の古都京都の象徴、嵐山を離日前の最後の逍遥の地に選んだことと無縁ではない。

その折の感動を周恩来は自ら、詩「雨中嵐山」を詠んで残した。嵐山公園にこの詩が石碑となって立つ。

現代史において苦難が日中の間に継続しているが、一世紀たった今、多くの中国人が観光の地として自発的に嵐山を選択する由縁である。青年時代の周恩来の百年前の関心事はなにか、気がかりなるのであろう。日中の文化交流は昔も今も底流で脈々とつながっている。百年前も今も、嵐山は京都の名勝地に変わりはない。風光明媚というだけでなく有名寺院など名刹も多く、古都の奥座敷のたたずまい。嵐山に引かれた周恩来の思いは、現在の中国人も共鳴する魅力であろう。

本卓話は京都の嵐山を散策した周恩来における必然をたどりながら、彼が主導提唱した民間外交の原点を探索する試みである。

今後の行事および卓話予定

- 10/ 9 「常磐橋の修復保存」
(株)文化財保存計画協会
西村 祐人様
- 10/16 休会
- 10/23 「仮題 ローターアクトとは」
直前地区 RA 会長 三浦慎太郎様
- 10/30 移動夜間例会
- 11/ 6 「イニシエーション・スピーチ」
- 11/13 「東京神田 RC との合同例会」
- 11/20 「チェンライの報告」
- 11/25 中央分区 IM
- 11/27 ガバナー公式訪問

創 立 1993年10月13日(平成5年)
例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテルグランドパレス Tel : 03-3264-1111
会 長 : 永井 一史 幹 事 : 西村美智子
会報委員長 : 松島 健
会報委員 : 木村・木宮・佐々木・八木・山下

事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2
グランドマンション九段 906 号
Tel : 03-3288-7300 Fax : 03-3288-7400
<http://tokyo-orc.jp/>
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp